

「デジタル田園都市国家構想」2年目、実現に向けて

一般社団法人 デジタル田園都市国家構想 応援団

2年目の基本方針と会員入会のお願い

目指すべき「デジ田ローカルハブ」のプロトタイプ構築と
実現するための「地域DXプロデューサー」の
発掘・認定・育成 事業の創出

概要

2023年2月7日

一般社団法人 デジタル田園都市国家構想 応援団

理事 芳賀 雅彦

「デジ田 応援団」2年目の基本方針

「デジ田」2年目。「デジ田応援団」2年目の活動の基本方針：

目指すべき自立した「デジ田ローカルハブ」のゴール設定と それを実現する「地域DXプロデューサー」認定事業の立ち上げ

特に、「地域DXプロデューサー」の認定事業とは、DXを活用した地域の課題解決と魅力化を実現できる人材を発掘・認定・育成する内容です。

- (1) 地域DX推進の最大の課題はDX人材の不足。企業内・自治体内にDX人材の育成が可能です。
- (2) リスキング（新しいことを学び、新しいスキルを身につけ実践し、そして新しい業務や職業に就くこと）という、地域においても、キャリア再形成の大きな機会につながります。
- (3) 人的資本経営（人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる経営の在り方）という、まさに、地域の価値向上の経営を担う人材を輩出できます。
- (4) 地域の小中・高校・高専生・大学生などの次世代のキャリア形成に大きく貢献できます。
- (5) 海外・都市と地域の自治体、企業や学校において、マッチングや連携提携が可能です。

是非、入会やご協賛ご協力ご支援をよろしくお願いいたします。

「デジ田 応援団」2年目の重点施策 **現在検討中**

「デジ田応援団」2年目の重点施策：

1. 「デジ田ローカルハブ」のプロトタイプ構築（地域→地球メタバース構築）
2. 「地域DXプロデューサー」の発掘・認定・育成認定事業の立ち上げ
3. 海外高度人材の誘致定着・地域歴訪事業プログラム
（仮称：90 day Japanese programme）
4. 国内高度人材の地域歴訪事業プログラム
（仮称：テロワールラーニングジャーニープログラム）
5. 地域発日本の未来をランドデザインを構想する若者支援対話会議の創設

具体的な施策：

- ① 地域DXプロデューサー認定イベント（☆2、☆3）
- ② オンライン番組の製作
- ③ 自治体や関係団体との共催イベント（セミナー・ワークショップ・展示など）
- ④ 地域DXメニューブックの作成、配布、説明会と個別相談

「一般社団法人 デジタル田園都市国家構想 応援団」 へのお問合せ：

info@digital-supporter.net



デジタル田園都市国家構想
応援団事務局

<https://digital-supporter.net>

**資料は、現時点です。今後、順次、発表予定。
使用している写真や名称は、イメージです。**

1

「デジ田ローカルハブ」のプロトタイプ構築（地域→地球メタバース構築）

1. 構築する「デジ田 ローカルハブ」のプロトタイプ構築（地域→地球メタバース構築）

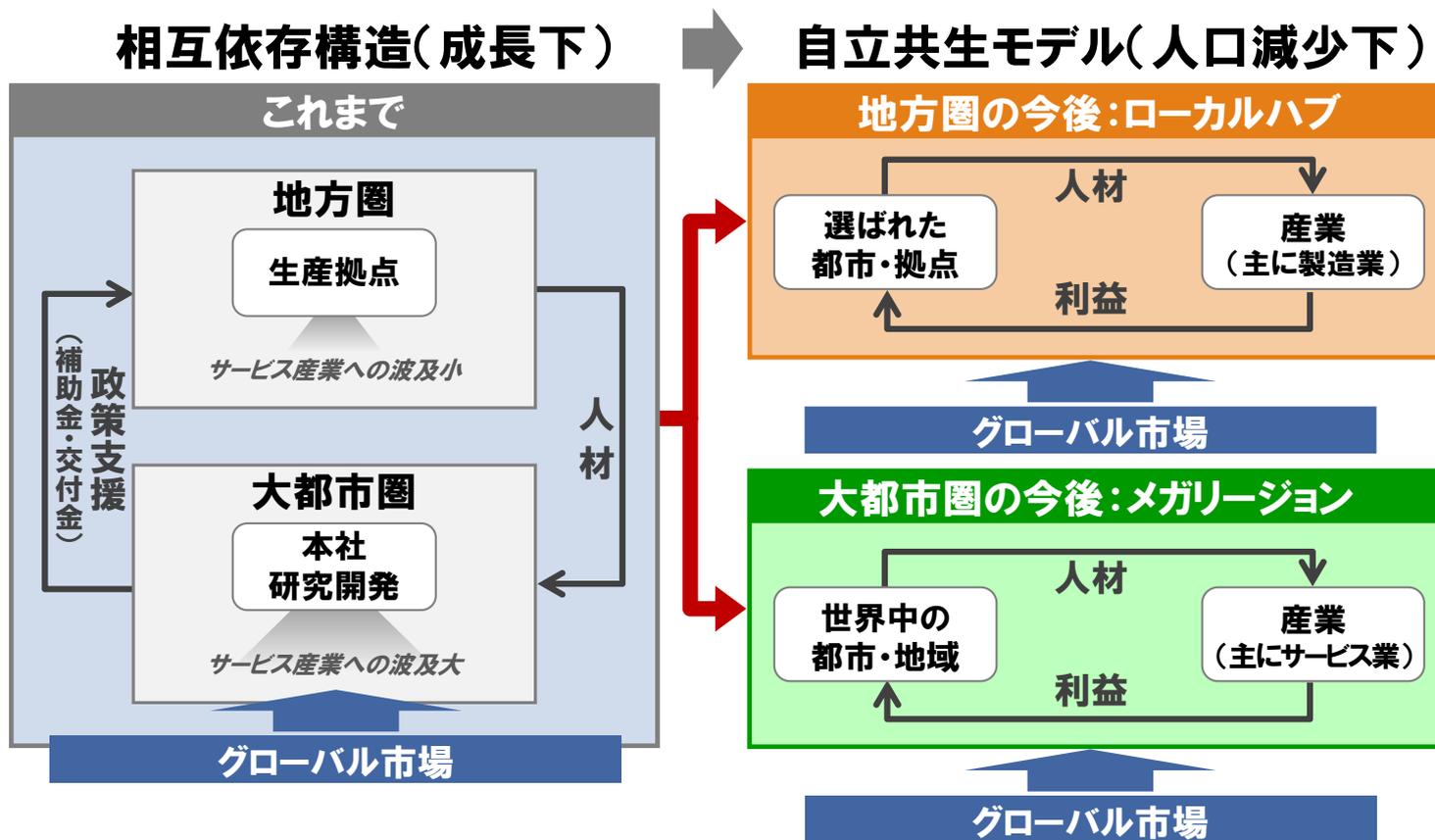
地方圏や大都市圏に関係なく、**国内外の様々な都市・地域と連携**し、付加価値の高い仕事を根付かせ、**新たな成長**を生み出し続けるためには、「**ローカルハブ = 地域(都市)自立圏**」=「**デジ田ローカルハブ**」が必要です。



住民自ら動く・参加するウェルビーイング・コミュニティ

地域活性化と日本の再生の実現、その鍵は“ローカルハブ”

- 地方圏にあって（＝ローカル）、国内外の様々な都市・地域と連携した（＝ハブ）「**自立（独立）都市圏**」



2

「地域DXプロデューサー」の発掘・認定・育成認定事業の立ち上げ

2. 地域DXプロデューサー／地域DXスペシャリストとは

地域DXプロデューサー（LdxP）

「地域独自の**価値・魅力**を最大限に引き出し、**地域課題の克服**や新たな**産業の創出**により、そこに**暮らし・集う人々の幸せ**と**サステナブルでウェルビーイングな地域経済／社会**を実現する」
プロジェクト・リーダー／総合プロデューサー



個人（学生、個人事業主他）

自治体職員

地元企業、スタートアップ、ベンチャー経営者、他
一般企業の役員、社員

LdxPは、「最新のデジタル・テクノロジーや事業デザイン力、マーケティング力をLdxSと連携し、それぞれの力を駆使しながら、国内外、産官学民と連携し、地域に暮らし・集う人々と心と力を合わせて**変革／創造**を牽引する”**ケイパビリティ**”と”**人間力**”がある」ことが要件

地域DXスペシャリスト（LdxS）



①ビジネスデザイナー



②データサイエンティスト
／AIエンジニア



③UXデザイナー



④アーキテクト



⑤エンジニア
／プログラマー



⑥先端技術エンジニア



⑦サイバーPRマーケター

7人の北斗七星をイメージ

LdxPとともに、「それぞれが持つ**高度な専門性“異能”**を発揮し、**変革／創造を実現**」する**7カテゴリー**で定義した
スペシャリスト／エキスパート／イノベーター

LdxPの審査方法

	LdxP★【グリーン】	LdxP★★【ブルー】	LdxP★★★【ゴールド】
位置づけ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域DXプロデューサー初級（座学） 2. 試験／審査に基づき個人を認定 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域DXプロデューサー中級（実践） 2. LdxP★に対してPBL、実績で審査 3. 資格ではなく、地域毎の評価認定 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域DXプロデューサー上級（貢献者） 2. 各地域での実績があり、地域／全国コンペティションでの評価で認定
審査方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認証機関が認めた認定講座・試験の修了・合格＋認定機関への申請 <ol style="list-style-type: none"> ① DX関連資格（MCPC他） ② 高専、大学の指定講座修了単位（OIC、私情協） 2. 地元自治体、経済団体（商工会議所、用展開、JC他）等の推薦＋本人申請（活動実績／成果等を示す資料、ビデオ等）に基づき、認定機関による審査 	<ol style="list-style-type: none"> 1. LdxP★を対象に、PBLを開催、一定の成果を上げたものに対して授与 <ol style="list-style-type: none"> ① 各地域主催の地域課題ビジコン入賞 ② 高専、大学のPBL講座成績優秀者 2. それぞれ認証機関が認めた地域認定機関が審査、認定。審査委員は認証機関、地域認定機関が委嘱した各界有識者 3. 各地域ビジコンは協賛方式での運営を想定。高専・大学は地域協同PJ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. LdxP★／LdxP★★を対象に全国各地域でのプロジェクトに貢献した実績讀え、地域ブロック、全国の優秀者を評価 2. 地域課題テーマ別、地域ブロック別、等の各賞と全国総合最優秀者等を設定 3. 全国自治体からの推進による公募と書類審査、入賞者は全国大会でプレゼン審査。各界有識者による審査 4. 協賛方式の運営を想定
認証	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公認資格として、履歴書等に記載可能 2. 認証は、「オープンバッジ」「デジタル証明書（印刷保存化）」で発行 3. 所属法人は「LdxP事業者」表記化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域課題ビジコンはプロジェクトの評価とLdxP/LdxSを評価し、それぞれ認定 2. ○○年LdxP★★として「オープンバッジ」「デジタル証明書」を発行 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 審査はプロジェクトとLdxP/LdxSを評価、認定 2. ○○年LdxP★★★として「オープンバッジ」「デジタル証明書」を発行
更新	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術革新による有効性と手続きの手間を考慮し、2年更新（※キャリアカウンセラー、中小企業診断士等） 2. 認証機関が認めた認定講座の必要単位を修了 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎年開催。ビジコン入賞者、PBL単位取得者は「○○年LdxP★★」として公式サイト、メディアに公開 2. プロジェクト内容が異なれば同一人物の連続受賞は妨げない 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎年開催。各賞に「○○年○○部門LdxP★★★」として公式サイト、メディアに公開 2. プロジェクト内容が異なれば、同一人物の連続受賞は妨げない
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地方創生、地域DX推進に必要な人材要件を満たす公式資格としてその活動を保証／評価。例えば、公共プロジェクトや民間取引条件として有資格者として記載、等 2. 就職活動や、人事評価／異動／昇格等にも活用 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者はPBL、ビジコンの取組内容、審査結果等を、認証機関／デジ田応援団等の公式サイトやメディアに公表、全国の自治体からの問い合わせ受付、人材紹介などのマッチング事業を別途検討 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合最優秀者は日本を代表する「クリエイティブクラス」として、協賛団体からの報償、特典を提供 2. 日本を代表する「クリエイティブクラス」として、対象プロジェクトとともに世界に発信

3

海外高度人材の誘致定着・地域歴訪事業プログラム

3. 海外高度人材の誘致定着・地域歴訪事業プログラム

仮称：90 day Japanese programme

概要 海外の高度人材（DXプロデューサーを軸に）の誘致定着と、地域への歴訪実践により、グローバルにおけるデジ田ローカルハブ構築を目指す。

*フィンランド政府が2021年より実施している「**フィンランド90日プログラム**」を連携を視野に入れて検討中

実施時期 検討中。



* 写真はイメージです

参考：「フィンランド90日プログラム」とは

90 Day Finn programme

Experience life and work in Helsinki, the capital of the world's happiest country. Take this chance to immerse yourself in one of the most innovative business ecosystems and one of the most sustainable cities on the planet.

The application period is now closed. Stay up-to-date with all the information regarding the 90 Day Finn programme and be the first to find out when the next application period will open by following us on LinkedIn, Twitter, Facebook and Instagram.



フィンランド90日プログラム ：フレックスプレイスから定住へ。クリエイティブクラスの誘致

フィンランドの「90日お試し移住」に応募殺到 世界のIT人材獲得へ 90日間、ヘルシンキであなたの滞在を無料サポートします。こんなキャンペーンを、海外のIT技術者を対象にフィンランドのビジネス団体が企画したところ、15人の定員に世界各地から5330人の応募があった。小国ながらも世界を変えるIT技術を生み出してきた同国だが、少子高齢化が進行しており、国を挙げて有能な移民獲得に取り組んでいる。

まずはお試しから 手厚いサポートに応募者続々

このキャンペーンを企画したのは、国際貿易と投資を促進する組織、ヘルシンキ・ビジネス・ハブだ。当選者には空港での出迎え、フィンランド生活に必要な公的書類、住宅および子供の学校や託児所の手配、リモートワーク用施設、ハイテクハブやネットワークへの紹介を含めたパッケージが用意されている。航空券代や滞在費は自腹だが、お試し滞在終了後に移住を決めた場合は、永住権申請のための援助が受けられる。

世界中から応募があり、30%は北米からだった。応募者の70%がリモートワーカーで、16%が起業家、12%が求職者だった。さらに投資家60人からの応募もあったという。15人の当選者とその家族は2月下旬にはヘルシンキに到着し、お試し生活を開始する予定だ。

国内では人材不足 米IT技術者獲得に本気

フィンランドはノキア、SMS、Linuxを世界にもたらし、人口1人あたりのデジタルスタートアップが世界で最も多いIT先進国だ。IT分野で高いスキルを持つ人材を必要としているが、需要が供給に追いついていない。

その理由が労働人口の減少だ。少子高齢化が進んでおり、十分な移民を受け入れなくては労働力が確保できない。長期的に見ればこのままでは雇用自体が減り、その結果、国際競争力を失うと見られている。そこで政府は、「タレントブースト（Talent Boost）」というプログラムを立ち上げ、積極的に有能な外国人材の獲得を目指している。

世界の優秀な人材にとって、これまでフィンランドが希望の移住先の上位に来ることはなかった。スタートアップが盛んといっても、人口600万人弱のフィンランドの首都ヘルシンキの人口は100万人にも満たない。世界的な影響力が小さく、観光客の往来も少なく、多国籍企業の本社も少ない小都市、というヘルシンキのイメージが不利になっているという専門家の声もある。

こういったハンデを克服し、フィンランドの魅力をアピールしてほかの都市との差別化を図るため、お試し移住は計画された。

キャンペーンの主要ターゲットはパンデミック対応のまずさと政治的分断に疲れた、アメリカ西海岸のIT技術者だという。北欧の寛大な社会福祉や優れた学校制度も彼らには魅力的だ。参加者にフィンランドの良さを知ってもらう絶好の機会になると同時に、宣伝効果も期待できそうだ。

4

国内高度人材の地域歴訪事業プログラム

4. 国内高度人材の地域歴訪事業プログラム

仮称：テロワールラーニングジャーニープログラム

概要 国内の高度人材（DXプロデューサーを軸に）の地域への歴訪実践により、実践と地域同士の共有を加速化し、デジ田ローカルハブ構築を目指す。

* L47(事務局:えぞ財団) が検討している「テロワールラーニングジャーニープログラム」との連携を視野に入れて協議中

* JC（日本青年会議所）の実施する「価値創造プロジェクト」との連携を視野に入れて協議中。

実施時期 検討中。



* 写真はイメージです

5

地域発日本の未来をランドデザインを構想する若者支援対話会議の創設

5. 地域発日本の未来をグランドデザインを構想する若者支援対話会議の創設

概要 地域、日本と世界の視点から、地域自体と日本の未来を構築する会議体。
 デジ田応援団の諮問組織として位置付ける。
 特に、会議体メンバーと地域の次世代との対話や交流、全面支援を主眼とする。

実施時期 検討中

参考) デジタル田園都市国家構想実現会議 有識者構成員

石山 志保 福井県大野市長

井濶 誠 和歌山県白浜町長

太田 直樹 株式会社 New Stories 代表取締役

加藤 百合子 株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役社長

正能 茉優 株式会社ハピキラ FACTORY 代表取締役・慶應義塾
大学大学院特任助教授

竹中 平蔵 慶應義塾大学名誉教授

富田 哲郎 東日本旅客鉄道株式会社取締役会長

野田 由美子 ヴェオリア・ジャパン株式会社代表取締役会長

平井 伸治 鳥取県知事/全国知事会会長

増田 寛也 日本郵政株式会社取締役兼代表執行役社長

村井 純 慶應義塾大学教授

柳澤 大輔 株式会社カヤック代表取締役 CEO

湯崎 英彦 広島県知事

若宮 正子 特定非営利活動法人ブロードバンドスクール協会理事



具体的な施策

① 地域DXプロデューサー認定イベント（☆2）

☆2：地域DXプロデューサーピッチ in ○○○（自治体名）

概要 地域DXプロデューサーの☆2認定試験は、PBL講習の上、具体的な市町村の社会課題や魅力化を、DXを利用して解決する具体的な事業計画をビジネスコンテスト形式で行うものとする。

主催 **主催自治体**×デジタル田園都市国家構想応援団 *他の形式も検討

期間 4～6か月を想定。

形式 募集から最終ビジネスピッチコンテストまで4～6か月を想定

スタートアップのアクセラレータープログラムを想定。

- ・DXの基本・応用技術の習得
- ・（該当）地域での地域課題の発見・解決
- ・（該当）地域での地域の魅力化
- ・コミュニケーション力
- ・プレゼンテーション力などを習得

選考 最終ビジネスピッチでの審査

* 写真はイメージです



② 地域DXプロデューサー認定イベント（☆3）

☆3：地域DXプロデューサーサミット

概要 地域DXプロデューサーの☆3に認定された地域DXプロデューサーが一堂に会するセミナー、ワークショップ、事例紹介や授与式を行う。

主催 デジタル田園都市国家構想応援団

期間 検討中

形式 検討中

- ・セミナー
- ・ワークショップ
- ・事例紹介
- ・展示
- ・授与式（懇親会）



* 写真はイメージです

③ オンライン番組の製作

デジ田応援団 オンライン番組の製作

「地域NEXT・日本NEXT・・・地域再興サステナブルプロデューサーたち」(仮タイトル)

(1)概要：「デジ田応援団」の協賛企業や地域DXプロデューサーを紹介するオンライン番組の製作。

・**会員メリット強化**：協賛企業を中心に、法人会員、自治体パートナー、個人会員や地域DXプロデューサーの活動、メリットや使用実例などを紹介

・**知名度向上強化**：「デジ田応援団」自体の情報発信強化による知名度向上

・**会員内の活動強化**：「デジ田応援団」内の自治体、企業や個人会員同士のコミュニティ活動の活性化

(2)番組の製作名：「**地域NEXT・日本NEXT・・・地域再興サステナブルプロデューサーたち**」

(3)日時：2023年5月より、第1回リリース予定。最長でも、10分を想定。

形式：オンライン配信

(4)番組の製作告知：デジ田のオウンドメディア

*PRTIMESやSNSなど随時対外発信強化を行う。



(5)番組の製作形式

地域再興サステナブルプロデューサー（企業の代表・地域DXプロデューサーなど）が出演し、企業（自身）・商品サービスの概要・活動や具体的な事例（利用者が商品やサービスへのコメント）を書紹介。（女性）司会者がある内容を聞き出す形式。

1～2社・名の登場を想定。

「一般社団法人 デジタル田園都市国家構想 応援団」 へのお問合せ：

info@digital-supporter.net



デジタル田園都市国家構想
応援団事務局

<https://digital-supporter.net>

**資料は、現時点です。今後、順次、発表予定。
使用している写真や名称は、イメージです。**